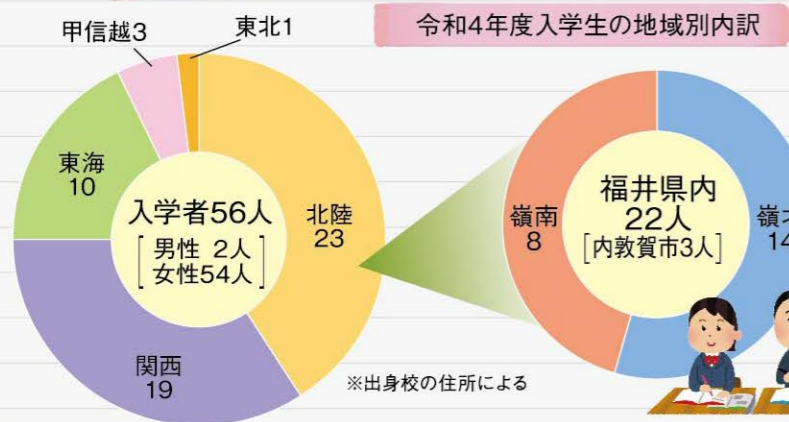


入試関連情報



令和3年度卒業生の進路状況



お知らせ

敦賀市立看護大学
ジャーナル

敦賀市立看護大学は敦賀市、嶺南地域における「知」の拠点としてその機能を果たすべくジャーナルをホームページで公表しています。

◎本ジャーナルが幅広く医療に関心ある方々のお役にたてればと考えています。

科目等履修生・聴講生の募集について

敦賀市立看護大学では、学生たちと一緒に学ぶことができる科目等履修生・聴講生を募集しています。詳細は本学ホームページの「地域・一般の方へ」のページをご覧ください。

敦賀市立看護大学ニュース

すずかけ

vol.9

発行/公立大学法人 敦賀市立看護大学
2022年12月28日発行
福井県敦賀市木崎78-2-1
URL <https://tsuruga-nu.ac.jp>
TEL 0770-20-5500
FAX 0770-20-5548



令和4年度も新型コロナウイルス感染症の流行が収まらず感染対策の徹底を続ける1年となり、人と人が接する活動を自粛せざるをえない状況が続いています。そのような中でも、実習先をはじめとする施設や地域の方々との継続した交流により学生たちの学びが支え続けられていることに感謝しております。人とのつながりの中で地域と共に学び、社会人としての学生を成長させる大学でありたいと思います。

図書館だより

敦賀市立看護大学附属図書館は学外の方もご利用いただけます。

利用できる方

- ◎敦賀市に在住又は勤務する18歳以上の方
- ◎その他附属図書館長が適当と認める方

貸出

- ◎図書は、必ず返却期限内にカウンターへご返却ください。
- ◎1冊でも返却期限を過ぎた図書があると、新たに図書を借りることができません。

返却

- ◎貸出冊数: 5冊以内
- ◎貸出期限: 2週間以内

開館日時

- ◎通常時 9:00～19:00
- ◎休館日 土曜日及び日曜日 国民の祝日

※詳細は本学のホームページを参照してください。
※新型コロナウイルスの感染状況により、開館時間の短縮および学内者へのみの利用とする場合があります。

学生食堂のご案内

敦賀市立看護大学の学生食堂は一般の方もご利用いただけます。リーズナブルなメニューが揃っていますので、近くにお立ち寄りの際は、ぜひご利用ください。

営業時間 平日11:00～14:00 (13:30ラストオーダー)

※営業時間は令和4年度のもので、
※夏季、年末、年度末は長期休業する場合があります。
※新型コロナウイルスの感染状況により、学内者へのみの営業とする場合があります。

編集後記

本誌「すずかけ」も今回の発行をもちまして9号を数えることとなりました。年1回の発行ですので、本学が開学して9年経ったということになります。嶺南にある唯一の看護大学として、この9年間は地域とのつながりを通して学生の学びを進めることを模索してきました。そこで本号では「地域」と「学び」を鍵として構成をいたしました。また、コロナ禍が続く中、2年生を中心として3年ぶりに海凜祭を開催しました。地域との結びつきを少しずつ取り戻してきている時期に差し掛かっているように思います。本学では、これからも地域での学びを通して社会に開かれた学生の育成に努めて参ります。今後とも、皆様からのご支援・ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(編集委員 池原)

基本理念

敦賀市立看護大学は、豊かな教養と総合的な判断力、高度な専門的知識と実践力を有する人材を育成するとともに、看護の発展に貢献できる質の高い研究に取り組むことを通して、人々の健康と福祉の向上に貢献できる大学を目指します。



教育目標

敦賀市立看護大学は、大学の基本理念を達成するため、次の5項目を教育目標とします。

1. 学問への関心を持ち、豊かな教養を身に付け、自立した社会人として行動できる能力を育成します。
2. 人々の生命に対する畏敬と、生き方への尊厳の念を持って看護が提供できる豊かな人間性を育成します。
3. 高度な医療に対応できる専門的知識、技術、倫理観を身に付け、看護が実践できる能力を育成します。
4. 地域医療の充実と発展を自らの使命とし、他職種と協働して地域に貢献できる能力を育成します。
5. 専門職としての誇りを持ち、将来にわたり看護を発展させていくための自己研鑽能力と主体的研究能力を育成します。

地域に支えられて学ぶ

敦賀市と看護大学生が創造する 災害から要配慮者の命を守る体づくりと防災対策



本事業は災害看護学を履修している学生が、地域住民と敦賀市危機管理対策課、地域福祉課、長寿健康課、健康推進課の協力を得て災害時の避難に看護の視点を取り入れて、学生自らができる支援について考えます。初年度は昭和町、次年度は呉竹町、今年度は再び昭和町の協力のもとフィールドワークを行い、聞き取りと郵送を合わせて全戸調査を行いました。それらを基に環境地図の作成や意見交換会を行いました。今後、住民の方に今年度の報告を行っていきます。学生たちはこの活動を通して、敦賀市について理解を深め、自分自身も住民の一人であると自覚したり、学生でも出来ることがあると自信を深めたりして学んでいます。



フィールドワークで見たことや感じたことを基に環境地図を作成し、防災への利点や危険箇所などを可視化しています



敦賀市役所の方から、防災や健康支援、市民の声など具体的な助言を得ています

美浜町佐田地区住民が看護大学生と共に行う健康づくり



フィールドワークで見出した健康課題についてまとめています



美浜町の歴史を学びます

これらの敦賀市と美浜町での事業は、未来協働プラットフォームふくい推進事業（福井版PBL支援分）補助金を活用しています

在宅看護学IIでは、療養者が住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けることを可能にするために健康課題を捉え、その解決に向けた支援を学生が考えることをねらいとしています。そのために令和2年度から本事業を活用して、美浜町役場と佐田地区の協力のもとフィールドワークを継続的に行ってきました。今年度も2日間[6月7日(火)・21日(火)]にわたり学生は、美浜町歴史文化館の見学を通して住民の方々の生活や習慣を理解すると共に、実際に佐田地区を歩き、住民の方とのふれあいを通して健康課題を見出しています。学生が見出した健康課題は、健康サロンなどの場において地域の方々に役立てていただけるようお伝えしていきます。この経験は、学生が地域の人々に関心を寄せ、主体的に健康課題の解決に向けて取り組む姿勢や力を育む機会になっているといえます。今後も地域の方々のご協力を得て、学習を積み重ねていきたいと思っています。



地域住民の方に地域の特徴を伺っています

地域と 共に学ぶ

地域・在宅ケア研究センター事業のご紹介



第2回健康講座 [令和4年9月22日(木)]



第3回健康講座 [令和4年11月26日(土)]

地域・在宅ケア研究センターでは、今年度の「看護大学健康講座」のテーマを「暮らしと健康づくり」として、健康に暮らすために認知症をはじめとする病気や災害などに備えて「予防すること」、住み慣れた場所で自分らしい生活を継続するために「備えること」、を地域住民の方々と共に考えることにしました。そのために、地域住民の身近な場所で開催し、「学生サポーター養成講座」[※]を受講した学生たちによる企画を発表する、という新たなことに挑戦しました。9月22日(木)と11月26日(土)に粟野公民館で開催した健康講座には90名の方にご参加をいただきました。参加者からは、『地域に向向いての講座を今後も続けてほ

しい』『地域の人や学生と交流できてありがたかった』『学生による粟野劇場と銘打った「認知症予防と健康づくり」で聞いた具体的な話が理解しやすかった』『認知症になっても住み慣れた場所で生活するために色々な地域の取り組みを知りたい』『人生を振り返り、これからのことを考える機会となった』などの多くの感想が寄せられ、大いに励みになりました。今後もこのように皆様の身近な場所で開催し、地域に貢献していきたいと思っております。

[※]「学生サポーター養成講座」…「認知症予防につながる地域づくり」を学び、主体的に地域・在宅ケア研究センターの事業への関わりを持つ学生を養成する講座です

9月22日(木)および11月26日(土)の看護大学健康講座は、未来協働プラットフォームふくい推進事業(大学等魅力アップ支援分)補助金を活用しています

地域での 活動

救急・災害看護研究センター事業のご紹介

敦賀美方消防組合敦賀消防団機能別班(学生消防団)



平成31年度の総務大臣表彰に続き令和3年度にも消防庁長官より消防団等地域活動表彰を受け、代表の学生が敦賀市長を表敬訪問しました。



消防団活動に必要な知識と技術の学習会 [6月10日(金)] 場所: 敦賀市立看護大学



学生消防団員の声

消防団員として指導するとき、相手にどのように説明したらわかりやすいか、頭に残りやすいかが重要になります。重要なところは、受講者にしっかりと覚えて帰ってもらえるように工夫しながら行なっていきたいです。救急救命士の方が指導しているお手本をみて、色々学ぶことができました。自分の知識を再確認することができる機会にもなりました。

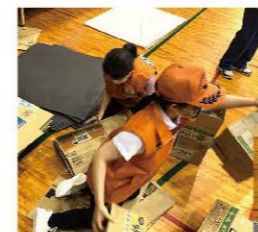
BFC(少年消防クラブ)で心肺蘇生法を教えています [6月22日(水)] 場所: 中郷小学校

学生消防団員の声

小学生を対象に指導する体験ができました。小学生に関わる機会はありません、どのように指導すれば良いのか不安もありました。しかし、実際やってみると楽しく、とてもやりがいのある活動であったと感じました。小学生は、しっかり話を聞き、積極的に実践にも取り組んでくれたので、とても楽しく指導することができました。



避難所での生活と健康を考える [7月2日(土)~3日(日)敦賀市防災訓練] 場所: 敦賀市内公民館



災害時の避難所宿泊訓練に参加しました!

学生消防団員の声

避難所宿泊体験では、少し物音がただけで驚いて目が覚めてしまったり、自分にはなるべく物音を立てないようにしようと思ったりしたこと、あまり眠れず、疲れが溜まってしまった感じがしました。命を守るために避難することは大切だと思います。それ以上に、避難所生活においてストレスが生じることが難点ではないかと感じました。このような体験ができることは滅多にないと思うので、参加することができて良い経験になりました。

学びを進める

研究科長から一言

看護現象に疑問を持ち、主体的に解決できる能力を高めるために大学院で学び、質の高い看護師を目指しましょう。



〈担当科目〉老年看護学概論、地域・在宅看護学演習、地域・在宅看護学特別研究

北村 隆子
きたむら たかこ

- ・大学院への出願は、資格審査を経れば4年制大学卒に限らず、受験資格を得ることができます。
- ・修士論文に看護管理の内容が含まれていることで、認定看護管理者の受験資格の取得が出来ます。

大学院看護学研究科



高度な看護実践力を基盤にした学術研究を通して、看護技術の開発に貢献する人材、更なる看護体系の構築に寄与することができる能力を有する人材を育成することを目指します。中心的学問分野として「救急・災害看護学分野」「地域・在宅看護学分野」「母子看護学分野」を設置しています。



学生の声 研究を生み出す過程を学んでいます。大変面白い道なのですが、本学の学習方法と先生方や共に学ぶ仲間との討論が私の支えとなっています。「伊吹麻紀子さん(修士2年生)」

助産学専攻科

豊かな教養と総合的な判断力、高度な専門的知識と実践力を有する人材を育成するとともに、地域に密着した母子保健の発展に貢献することを目指します。



専攻科長から一言

専攻科では、学生一人一人が目標とする助産師になれるように、先生達が熱心に学修のお手伝いをしています。



野々山 未希子
ののやま みきこ

〈担当科目〉助産学概論、周産期医学、周産期の生命倫理、周産期の診断と技術、乳幼児の発達発育とケア、地域母子保健論、助産管理、研究、助産学実習

着任教員の挨拶



教授
道重 文子
みちしげ ふみこ
(基礎看護学)

臨床経験をjて、大学教員として25年間、主に基礎看護学領域を担当してきました。修士課程では看護管理学を担当しています。歯学部附属病院での勤務経験から、嚥下性肺炎予防や口腔機能向上のための口腔ケアに関する研究や教育の普及に努めています。



教授
林 祐一
はやし ゆういち
(専門基礎)

臨床病態学・形態機能学を担当し、大学院生の研究支援も行っています。看護学は応用学問です。知識や技術の獲得に加え、看護の眼、気づきの眼をもてるよう、将来出会う患者さんのために一緒に勉強したいと思います。

学事

第7回 海凜祭

オープンキャンパス



3年ぶりとなる海凜祭を10月30日(日)に開催しました。今回は『繁』をテーマに、ステージ企画やビンゴ大会、学年企画によるお化け屋敷やフォトブースなど、地域の方々とのつながりを深めていけるような企画を用意し、多くの来場者を楽しんでいただきました。また、敦賀高校吹奏楽部やモルック体験、警察車両の体験など地域の皆様に出展のご協力をいただき、とても賑やかな一日となりました。ありがとうございました。

今年度のオープンキャンパスは、第1回[7月17日(日)]は新型コロナウイルス感染症の流行状況を踏まえて福井県内の高校生に限らせていただきましたが、第2回[11月3日(水・祝)]は全国の高校生・受験生を対象として開催し、延べ129名のご参加をいただきました。

当日は、本学の特色やカリキュラム、入学試験に関する「大学説明」や実際の講義を体験する「模擬講義」のほか、「看護学演習体験」や「進学相談コーナー」「学生生活コーナー」などのプログラムを実施しました。参加者からは、「学生さんや先生方が質問に丁寧に答えてくれてとても接しやすかった」「この大学で看護について勉強したいと思いました」などの感想が聞かれ、本学の特色や魅力を感じていただけたようです。



学生への学修支援



学生への学修支援として、救急・災害看護学研究センターの教員が中心となりPhysical assessment weekが行われました。Physical assessment weekは5月23日(月)~27日(金)、6月27日(月)~7月1日(金)の2回にわたり、昼休憩を利用して行われました。実技テストを受ける2年生を中心に、シミュレーターやお互いの身体を通して基本的な技術を復習しました。教員からは基礎はもとよりリアルな知識や臨床での体験を聞く機会となりました。延べ115名の参加がありました。

※Physical assessment (フィジカルアセスメント)とは…問診・視診・触診・打診・聴診などの身体診査を用いて患者の全身の情報を収集・評価し、一人ひとりの患者に適した対応を判断すること

卒後教育の取り組み

救急・災害看護学研究センターの教員が中心となり、第2回卒業生交流会が7月16日(土)に行われました。今回は1期生から5期生まで11名の卒業生が参加しました。ゲスト・スピーカーとして高原名誉教授も参加されました。参加した卒業生からは、「先輩の話からこの先の課題やどのような壁にぶつかるのかが分かった」「先生方に会い、学生であった自分を思い出少しホッとした」「オンライン講座などを実施してもらえたら学びなおしたい」などの声聞かれました。

